

牛久・土浦バイパスの開通と周辺地域の今後のまちづくりの考え方について



福田一夫 議員

質問 牛久・土浦バイパスが今年度中に供用開始予定となり、乙戸地域の隣接地であるつくば市の稲岡地区においては、大規模商業施設の開発が決定するなど、荒川沖・乙戸周辺地域は近年その状況が大きく変わりつつある。この変化を踏まえ、本市での同地域のまちづくりの考え方について伺う。

都市部長 牛久・土浦バイパス沿線地区について、都市計画は市街化調整区域であり、第7次総合計画の中では大部分が自然的土地利用を図る区域となっていることから、当面は市街化区域への編入や、ロードサイド型店舗の集積等について、積極的な誘導は考えていない。しかしながら、バイパスの開通や圏央道の進捗状況、また、つくば市稲岡地区の大規模開発等、周辺の都市環境も大きく変貌するこ

とも考えられることから、今後の都市計画マスタープラン等の見直しの際に、地域の皆さまや市民の皆さまの意見を伺いながら、まちづくりの将来像を描いてまいりたい。

（掲載以外の質問事項）
1 小児用肺炎球菌ワクチンについて



牛久・土浦バイパス(東大通り付近)

小町の里整備事業費について



古沢喜幸 議員

質問 新治地区にある東城寺の西側に、広大な盆地が存在する。まさに土浦市の秘境であるこの地域を、本市の観光資源として考え、小町の里整備事業への2億1千300万円

をこちらに投資するべきと考えるが、見解を伺う。

市長 平成20年度に策定した土浦市観光基本計画では、小町の里地域全体をエコミュージアムに見立て、既存施設である小町の館の機能充実を図ることが位置付けられており、今年度は小町の里整備基本計画の策定を行う予定である。議員ご提案の採石場跡地については、民有地での指定区域内であることから、現在の雄大な自然景観を活かした自然公園本来の活用方法を考えるべきではないかと考えている。

（掲載以外の質問事項）
1 沖縄に米軍基地がなければ日本を守れないのか。
3 水道事業について



小町の館

まちづくり活性化バスの「乗車拒否」事件を踏まえ、公共交通の取り組みの現状と課題について



井坂正典 議員

質問 本年5月、車椅子を利用した高齢者の方がキララバスの乗車を断られた問題については、市、NPO法人まちづくり活性化土浦、商工会議所、タクシー事業者等の素早い取り組みと真摯な対応によって収束したが、この事件を踏まえ、現在、本市の公共交通の取り組みの現状と課題について伺う。

産業部長 この度は、当事者の方々を始め、関係者の皆さま方にご迷惑をお掛けし、運行支援者としても深くお詫び申し上げます。今回の経緯は、10人乗りジャンボタクシーに乗車の際、現車両では安全に固定する設備が備わっておらず、運行にあたり危険と判断してお断りしたものである。今後は、運行事業者への接遇サービスの指導徹底、バリアフリー対応への検討を重ね、障がい者や高齢者の方も安心

して利用できるよう努めてまいりたい。

都市部長 本市では、高齢者や障がい者等の各種団体、交通事業者、学識経験者、関係行政機関を委員とする土浦市地域公共交通活性化協議会を設置し、地域公共交通総合連携計画を策定した。計画では、人と環境に優しい交通体系の構築を基本理念として、全ての人に優しい持続可能性のある公共交通体系を目指している。また、市民関係団体、公共事業者、道路管理者等で構成する土浦市バリアフリー基本構想策定協議会を設置し、バリアフリー新法に基づく基本構想を策定した。基本構想では、バリアフリー化のために実施すべき特定事業を149事業位置付けている。今後も、計画、設計、実施、検証、改善の各過程において利用者のご意見を伺いながら、バリアフリーの推進、また全ての人に優しい公共交通体系の実現に向けて施策の展開を図ってまいりたい。

（掲載以外の質問事項）
1 教育委員会の改革について
3 新任部長の抱負と決意を伺う

1 教育委員会の改革について
3 新任部長の抱負と決意を伺う